

緑の風

京都教育大学 環境教育実践センター 発行

第8号 2012年 5月15日

陸軍の建物 懐かしの木々 農業実習開始 センター事業（地域ネットワーク構築、公開講座等） センター動向 スタッフから



5月初旬のセンター農場

センター内に現存する「陸軍の建物」について

武島良成（社会科学科准教授）

環境教育実践センター内の、「陸軍の建物」と言われる倉庫（管理棟の東側のもの）について、岡本・田淵先生の協力を得て調査をしましたが、武島個人として一定の結論を出しました。陸軍の施設だったことはまず間違いなく、形状から見て、輜重兵隊（輸送などをする部隊のことです）の自動車の修理所だったと判断できます。暫定的に、旧輜重兵隊自動車廠と名づけてはどうかと思います。

田淵先生の回想談によると、この建物はもともと敷地の西端にあり、1967年に業者がコロを使って今の位置まで動かしたそうです。移築前の姿は、1946年7月24日のアメリカ軍の航空写真で確認できます。ただ、1936年製版の都市計画基本図や、嵐有志グループ『輜重兵第百十六連隊 関係記録資料集』（1993年）が載せる「思い出の兵営配置概略図」（1939年当時を再現したもの、p.241）には、この建物は描かれていません。それらのことからすると、この建物が造られたのは、1940年頃から1946年7月の間だということになります。終

戦は1945年8月ですので、それまでに日本軍がつくったのか、それとも進駐軍（アメリカ軍）のために新築したのかが問題になります。



その点についてはっきり示してくれる資料は見つかっていませんが、1944年中期の、京都輜重兵隊時代の体験を描いた水上勉の小説（『兵卒の鬣』、1972年、新潮社）には、「さらに、炊事場の裏手は糧秣倉庫、酒保、下士官集会所になっていて、その向うは自動車隊の第三中隊の建物と車庫である」「これらの現役兵は、厩や、車両廠に朝早く入り出され、一日じゅう、馬、車両、馬具の手入れに余念がないことを知った」などと書かれています（p.60）。

やや適当な面もある描写ですが、先の「思い出の兵営配置概略図」と照合

すると、衛戍地の西北から西端に、自動車隊の建物や車庫（あるいは車両廠）が新設されていたと考えられそうです。

他方、京都府は、終戦から1946年10月末までに、進駐軍のために新設した兵舎は1、改修は86、新設庁舎は0、改修は58だったと記録しています（昭22-67、京都府総合資料館蔵「連合軍設営関係工事完結月報綴 終戦以降昭和二十二年四月三十日迄」）。1件だけある新築兵舎は、「伏見師団街道」に「進駐軍小屋」を造ったもので、1946年3月1日着工、4月10日竣工と書かれています。「輜重隊」の敷地では改修工事を1件行っただけだったようですので、件の建物は戦後造成されたものではなさそうです。これらのことから、まずは陸軍時代の施設であり、形状からして自動車の修理所だったと考えてよさそうです。

現在、南を向いている側が自動車の入り口で、数台を並べて収容できたようです。

懐かしの木々(6)

火事で命を繋ぐジャックパイン

田淵春三(本学名誉教授)



大木には樹霊が宿る、といわれ伐採には格別の配慮が払われてきたのに、昨今は安易に伐られることが多く、とくに諸事情があるとはいへ学校でのそれはいただけない。先年、某校の樹木にヤブガラシが覆い尽くしているのを指摘したら2株をバッサリ。オオモクゲンジは本誌第4号でとりあげた。耐震工事で犠牲になった木々は如何ばかり？

拙宅の近くに敗戦直後に植えられたシンジュの3株が暮れに伐られ、高さ1.8m、切口0.4mの見事な杭に。豊かな緑陰を恵んでくれていただけに「悔いを千載に残すのでは」と思った。



ところで、センターではこのようなことは「対岸の火災視」していたが、そうは問屋が卸さなかった。先日、岡本先生が「ジャックパインが南に大きく傾いて、建物に損傷を与える恐れが・・・」と。そこで以下のような由来と特性を反芻しながら善後策を練った。

ジャックパインは英名で、学名は *Pinus banksiana*、和名は種小名からバンクスマツ。センターへは1960年、*Pinus* 属の収集で知られる京都大学上賀茂試験地から分譲されたもので、圃場で仮植後1967年に現在地に定植した。

カナダの原産で北緯67度まで分布し、地下の凍結が60cmにも及ぶ寒冷地にも耐え、深根性で乾燥する岩石地や痩せ地でも育つ。

樹高は30m、直径2mにもなる高木だが環境により低木状にもなる。葉は2個束生し2~4cmと短く剛尖でねじれる。

最大の特徴は火事が種の維持に不可欠な環境要因となっていることである。球果(松傘)は直径2cm長さ4cm程と小さいがその鱗片は脂(やに)でくっついていて簡単に開かない。山火事の熱で脂が熔け、鱗片が開いて種子が外に飛び出す。植生がすべて焼かれて十分に日が当たり、発芽を困難にする落葉、落枝の層(リター層)が消失するとともに灰からは栄養塩類を供給され、すくすくと育つという仕掛けである。



球果の中の種子は25年は生き続けて火事に備え、球果は何年も落下しないので幹や太い枝にもついている。これらの性質は湿潤な日本などと違ってジャックパインの自生地のような乾燥地では落雷による自然発生の山火事の頻度が高く(100年以内とされるが近年は失火も多くもっと短い)、このたび重なる火事に見事に適合したものと言える。

センターの個体は樹高約10m、胸高径30cmで南に約50度に傾いている上に周囲の木々もあって、お世辞にも顕著な存在とは言い難い。しかし、この極寒の地にも耐え興味深い特性を持つマツを立派に育て続けるため、他に被害を与えない程度の切除をするとともに体裁の良い支柱をお願いしたい。

因みに、センターには *Pinus* 属としては *P.elliottii* スラッシュマツと *Ptaeda* テーダーマツがあり、付属高校のテーダーマツの並木もセンターの前身である農場で育成し、植栽したものである。

農業実習 I 開講

今年度の農業実習が始まりました。梁川先生の講義の後、さっそく畝作り、トウモロコシの種まき、マルチ掛けなどの作業を行い、笑顔にあふれた午後の時間を過ごしました。学生、市民の方々に加えて、今年は留学生も10人ほど参加。活気に溢れています。



マルチかけ終了、ピース。

4月 トウモロコシ、落花生の種まき、春植え球根の管理など

5月 ジャガイモの土寄せ、トマトの接ぎ木、イチゴの試食、朝顔の播種など

2012年度事業

プロジェクト2041

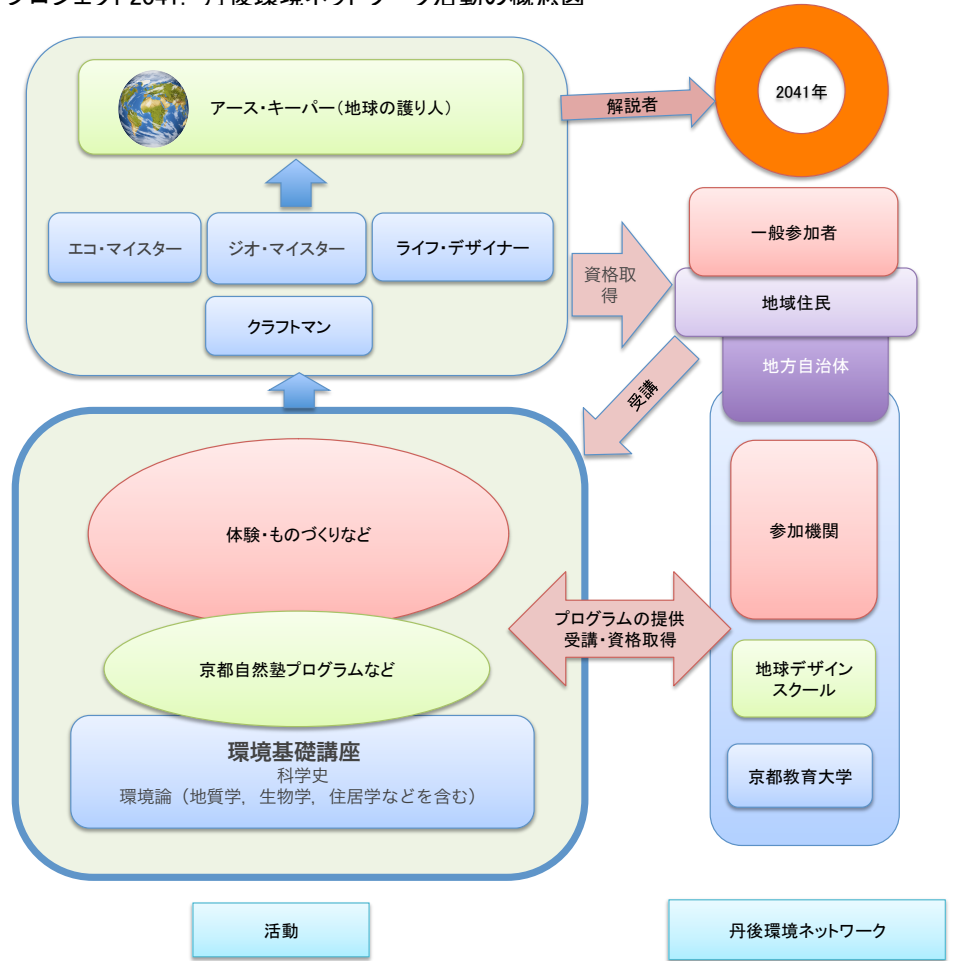
ー丹後環境ネットワークの構築ー

環境教育センターでは、「プロジェクト2041」と銘打って、3年計画の環境ネットワーク構築事業をJSTに対して申請しました。現在、書類審査中ですが、もしも採択されれば1100万円を3年間継続で獲得できます。

プロジェクトの概要は右図のとおりです。本学と環境教育について協定を結んでいるNPO法人地球デザインスクールをはじめとして、京都府文化環境部や宮津市自立循環型経済社会推進室、京丹後市商工観光部等の地方自治体、丹後地方の各団体や個人と連携して、環境教育に関するネットワークを構築し、持続可能な社会のあり方をも探っていこうとするものです。京都教育大学は、このネットワークの中核組織として、組織運営の要となると共に、「京都教育大学環境基礎講座」を開設します。大学による講座と各団体が実施する各種の教室とを組み合わせ提供し、一定の講座修了者には資格を授与し、最終的には「アース・キーパー（地球の護り人）」という称号を授与するしくみとなっています。

【様式3】-（1）企画内容

プロジェクト2041：丹後環境ネットワーク活動の概念図



公開講座

会場：環境教育実践センター

日時：土曜日 14:00～16:00

1) 幼稚園の自然観察・栽培・飼育実技講座（全6回）

開催日：4/14, 4/28, 5/12, 5/26, 6/16, 7/7

講師：梁川 正, 熊谷知子, 田渕春三
河嶋喜矩子, 向島章洋, 広木正紀

2) 将来の地球環境を支える子ども達に贈る科学実験教室（全9回）

開催日：4/28, 6/2, 7/14, 9/8, 9/29, 10/13, 12/1, 2/2, 3/2

講師：足利裕人, 高木崇安, 工藤博幸,
藤原 清, 梁川 正, 船田智史,
間々田和彦, 松林 昭

3) シリーズ環境を考える -自然とともに生きる楽しみ-（全6回）

開催日：5/19, 6/23, 7/21, 10/20, 10/27, 11/17

講師：田渕春三, 延原理恵, 岡本正志,
梁川 正, 田中里志

4) 小学生のための科学技術実験教室（全6回）

開催日：5/19, 6/9, 7/7, 9/1, 10/6, 11/17

講師：茶木 正, 岡田高芳, 梁川 正

※公開講座の開講日はすべて土曜日の午後です。

栽培体験教室（こども夢基金助成活動）全12回

会場：環境教育実践センター

日時：土曜日 10:00～12:00

開催日：4/21, 5/12, 5/26, 6/9, 6/23, 7/14, 9/29, 10/20, 10/27, 11/10, 12/1, 12/15

講師：梁川 正, 田中道男, 岡野寛治

センターの花々

シラン（*Bletilla striata*）

ラン科シラン属の宿根草で、ラン科植物には珍しく、半日陰から日向まで適応して育てやすい。種子の発芽率も高いため、交雑種が生まれやすいそうで（Wikipediaによる）、センターのものにも、赤と白とが交雑して中間色になりかけたものが見られます。遺伝子汚染についての考慮も必要だそうです。それにしても、群生する様は見事です。



「基礎セミナー」でセンター農場を使った「栽培体験」実習が始まる

「基礎セミナー」の時間内で、学生たちが「農場を使った植物を育てる体験」実習をすることになりました。本学のほとんどの学生は小学校以降、動植物の飼育・栽培体験を持っていないので、できれば全ての学生がこうした体験を持って卒業し教職に就くことが望ましいと思われます。

各専攻の受講希望とその日程を調整して、5月1日3限の国語領域専攻からスタートし、あわせて10の専攻の基礎セミナーにおいて、栽培実習体験が実施できることになりました。

学習内容:

環境教育実践センターでの植物栽培活動の見学ならびに有機物リサイクルシステムを活用した「食の循環」の実施を体感していただき、植物を育てるための土づくりの実際、苗作りの実際、そして、草花や野菜の苗のポットへの植え付け実習を行い、それらを持って帰ってもらって育てていただくことを課題として体験してもらう授業を行っています。

育てる苗の種類は、植え付け後の管理等を考慮して、サルビアなどの草花苗または野菜苗、そして、プレクトランサス属のアロマティカスという植物を準備しています。



5月9日現在、2つの専攻の授業を終えましたが、受講学生の感想には、とても意欲的に授業に取り組むことができ、楽しかった等の好意的な意見が多く見られています。(梁川 正)



アロマティカス

センター時暦

4月

10日(火) ホテルグランヴィア京都との連携による「食の循環サイクルの継続」平成24年度の活動実施、ハーブ播種

14日(土) 公開講座「幼稚園の自然観察・栽培・飼育実技講座」始まる7月7日まで6回 幼稚園教諭、保育園教諭26名受講

19日(木) ボランティア「塊の会」活動 センター内清掃、除草、花壇管理、樹木剪定、整枝、他

21日(土) 子ども夢基金助成「野菜や草花を栽培して育てる楽しみや不思議さ、大切さを学習する体験教室」始まる、12月15日まで12回、小学生の親子37組計74名受講

22日(火) 医療法人社団「中川医院」への園芸指導

墨染保育所見学 2から5歳児35名、教員5名

23日(月) 附属幼稚園5歳児親子ジャガイモの管理(除草、追肥、土寄せ、観察)園児30名、保護者30名、教員1名、計61名

24日(火) ホテルグランヴィア京都との連携による「食の循環サイクルの継続」、リサイクル堆肥のハーブ栽培畑への施用、ハーブ苗鉢上げ

28日(土) 公開講座「将来の地球環境を支える子ども達に贈る科学実験教室」始まる平成25年3月2日まで9回 小学生対象、午前、午後クラス計43名受講

共催：NPO法人サイエンスEネット

5月

1日(火) 基礎セミナーの時間における植物を育てる体験授業、始まる10専攻のみなさんへの授業を、7月2日までの期間に実施予定

8日(火) ホテルグランヴィア京都との連携による「食の循環サイクルの継続」ハーブ栽培畑へのビニール張り、除草、土づくり、ハーブ苗定植、ハーブ苗鉢上げ

8日(火) 伏見住吉幼稚園 センター見学、レンゲ採集等 園児と教員計65名

9日(水) 附属幼稚園5歳児親子ジャガイモの管理(除草、追肥、土寄せ、観察)園児30名、保護者30名、教員1名、計61名

14日(月) 京都市立西ノ京中学校「生き方探求・チャレンジ体験」2年生男子1名、女子1名、受け入れ、15、16、17日まで計4日間

15日(火) 附属特別支援学校高等部 センター内水田の田起こし 予定

高等部生徒30名と教員11名
19日(土) 公開講座「シリーズ環境を考える-自然とともに生きる楽しみ-」始まる11月17日まで6回 市民30名受講

19日(土) 京都府男女共同参画センター なら京都交流コーナーにおける「アートひろば 2012」において、「春の草花苗と寄せ植えの楽しみ」に関する実習指導

21日(土) 公開講座「小学生のための科学技術実験教室」始まる11月5日まで6回 小学生受講予定、受講者数未定

23日(水) 附属桃山小学校育友会、サツマイモの苗、栽培指導

24日(木) 予定 ボランティア「塊の会」活動 センター内清掃、除草、花壇管理、サツマイモ定植、他

28日(月) 京都市立小栗栖中学校「生き方探求・チャレンジ体験」2年生男子3名、女子1名、受け入れ、29、30、31、6月1日まで計5日間

スタッフから

岡本正志

環境センターに来て2年目になりました。農業実習では梁川先生のアシスタントをしていますが、受講者のみなさんが心から楽しんでいる様子に嬉しくなります。京カレッジで参加されている市民の方々も、お互い仲良くなられて情報交換されています。黄金週間には、わが甲賀県にも来ていただき、留学生ともどもバーベキューを楽しみました。

辻 俊夫

5月10日の農業実習で蒔いた種籾が、本日(5月14日) 苗代の中で発芽を確認しました。これからの温度や水管理等元気な苗に育つまではまだまだ気は抜けませんが、まずは一安心といったところです。

志賀真人

新緑の美しい季節。環境センターの樹々や花々の緑も日々輝きを増してきています。と同時に雑草とヤブ蚊との闘いは始まり。長袖シャツと蚊取り線香が手離せない毎日となりました。

橋本徳子

センターに来て4年目の春です。今春は寒い日が多く育ちも少し遅いようでした。草花の育つエネルギーをいただきながら今年もお世話させて頂きます。

編集後記

新年度が始まり、センターも活気に溢れています。今年もどうぞよろしくお祈りします。さて、環境センターでは新しく「プロジェクト2041」という事業を申請しています(cf.p.3)。2041とは何かお分かりでしょうか?ピンときた方は、かなりのおたくです。答えは次号で。その時には採否が分かっているでしょう。(O)